

講義名	教養特講（自己理解と他者理解）			授業形態	
担当教員	西尾 範博	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

当科では、「気づきの教育」の一環として一人ひとりの「なりたい自分」の発見とその実現のために不可欠な自己理解を深めるとともに、他者理解を通じて自らの視野を広げ、さらなる自己理解につながる機会を提供する。毎回の授業では、担当教員による小講義のあと、学生同士のディスカッションやグループワークを実施し、大学生活の4年間を少しでも充実したものにするとともに、「夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉と意思を交わすことができ、逆境でもたくましく生きぬく」人材を育て、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」の育成につながる契機となることを目指す。

到達目標

- (1) 自己理解・他者理解に関する基礎的な知識を身につけている。
- (2) ディスカッションやグループワークを通じて自己理解を深めている。
- (3) ディスカッションやグループワークを通じて他者理解を深めている。
- (4) 他者理解を深めることにより、さらなる自己理解を深めることができる。
- (5) 「なりたい自分」をより具体的に思い描くことができる。

提出課題

授業中の小講義やディスカッション、グループワークの成果にもとづく課題レポートの作成と提出を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

前回の課題を翌週の授業の冒頭で取り上げ、講評や補足説明等を行って前回の授業内容を振り返り、理解をさらに深める機会を提供するとともに、その日の主題に取り組む基礎となるようにする。

評価の基準

期末試験は行わない。担当教員の講義やディスカッション、グループワークにおける積極性、主体性などの毎回の授業に取り組む態度や姿勢（40%）と、提出された課題レポートの出来ばえ（60%）をもとに評価する。その意味では毎回が試験ともいえる。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) 毎回の授業ではディスカッションやグループワークを実施しながら進められるので、ディスカッションやグループワークに消極的な学生、参加しない学生には向かない。
- (2) 受講学生は、「なりたい自分」の発見とその実現のために自己理解・他者理解を深めるといふ共通の目的をもって学ぶ仲間となることを強く求められる。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

必要な資料は適宜配布し、必要な参考文献は随時紹介する。

授業計画

1. オリエンテーションと講義「自己理解と他者理解」
2. エゴグラムテストとディスカッション
3. エゴグラムテスト、MBTIとディスカッション
4. ライフラインとディスカッション
5. パケトリストとディスカッション
6. 自己紹介（またはPR）大会1とグループワーク1「謎の宝島」
7. 自己紹介（またはPR）大会2
8. グループワーク1・2：「（秘）謎の宝島」
9. グループワーク3「職場実習の目標」
10. グループワーク4「平和中学校」とディスカッション
11. グループワーク5「学内課題解決ツアー」とディスカッション
12. グループワーク6-1「他者理解インタビュー」と課題発表会
13. グループワーク6-2「他者理解インタビュー」とディスカッション
14. 「なりたい自分」発表会1とグループワーク
15. 「なりたい自分」発表会2とグループワーク

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業で課されるレポートの作成（1時間）をもって復習とし、授業における気づきや学びを自身の日常生活で実践し、さらに自己理解を深めること（3時間以上）をもって次の授業への備え（予習）とする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

上記の主題と概要、授業計画のもとでの到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである、「ネアカ、のびのび、へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる情報収集力、分析力、課題発見力、課題力を持った人材、創造力（新しい視点や豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持って課題に主体的に取り組む、解決に結びつけることができる人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成することに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内容を理解するだけでなく、授業中の気づきや学びの成果を自身の日常生活で実践することにより自己理解を深めることの達成となるこの授業では、毎回課されるレポートの内容を次の授業で取り上げることに加え、授業中のディスカッションやグループワークを通じて学生と教員の間での高い双方向性をもって進め、その過程で到達目標が一つずつ達成されることに努めたい。また、レスポンスを使って学生の気づきや学びの成果を即時に共有し、学生の自己理解・他者理解をさらに深める機会を提供したい。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回の授業におけるディスカッションやグループワークに積極的かつ主体的に取り組む、この授業の目標をすべて達成するぞという意欲的な態度と姿勢が強く求められる。なお、留学生在がこの授業を履修する場合は大量の日本語文章の読解力をもち、ディスカッションやグループワークが成立する日本語能力を有していることが不可欠となる。